

豊田市民芸館だより



伝 鴻巣人形 仮名手本忠臣蔵

目次

- ・特別展「全国の郷土人形一祈り・願い・美しさのかたち」……2.3頁
- ・特別展「藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事」を終えて……4頁
- ・民芸の森から……5頁
- ・開館40年を迎える豊田市民芸館のこれまでとこれから……6頁
- ・令和5年度展覧会のご案内……7頁
- ・民芸館からのお知らせ……8頁

第34号

特別展「全国の郷土人形—祈り・願い・美しさのかたち」

令和5年1月21日（土）～5月7日（日）

見どころ紹介

▷全国の郷土人形を紹介

日本各地で伝統的に作られ、庶民に親しまれてきた郷土人形。その多くは江戸時代から明治時代にかけて生まれました。長い戦乱の時を経て迎えた江戸時代、一般の人々の暮らしが安定したころ、毎年春になると子どもの健やかな成長を祈って人形を飾る「節句」の行事が全国的に盛んになったのです。将軍家や大名家といった上流階級では、着物を着せた高級な雛人形や御所人形などをたくさん飾ることができましたが、一般庶民には手の届かぬ高嶺の花でした。そこで、庶民にとって身近で、たやすく手に入れられる紙、土、木といった材料を用い、創意工夫して作られるようになったのが郷土人形の始まりです。それらは、粘土を表と裏の型に押し付け貼り合わせ、素焼きして彩色を施した「土人形」、型に和紙を貼り重ねて立体的に成形し、顔料で絵付した「張子人形」、タンスを作る際に出るおがくずに糊を混ぜて練り固め、乾燥させ彩色した「練り物」など、いずれも製法は単純で、素朴な人形です。

人々の暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められた郷土人形は、何れも丁寧に作られ、それぞれの地域特有の風土を色濃く反映しながら育まれてきました。そして特に地方色を強く表わした郷土人形の中に、期せずして豊かな美を伴う人形が数多く生み出されたという事実は、驚くべきことといえるでしょう。セルロイド、プラスチックなど、新しい素材の玩具が世に現れるたび、素朴な郷土人形は世の中から見放されていきました。同時に作り手を失い、すでに廃絶してしまった産地も多いですが、それでも根強い愛好家の支えで保存会が発足したり、若い作り手が現れたりしています。

今回の展覧会では、日本の土人形の源流と考えられている京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、岩手・花巻土人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形といった各地の特徴的な人形を紹介するとともに、愛知県内の代表的な土人形の産地である名古屋や三河、犬山の人形、さらには関西、中国、四国、九州、沖縄の郷土人形まで、素朴な美しさをたたえた全国の郷土人形をそれぞれ産地別に紹介します。

民藝運動を主導した柳宗悦は、人間と人形の関係について「人間の姿を純化して人形が生まれる」「人間の動作や表情が美しい時、それは人形のように美しい」と語っています。表情豊かな郷土人形を通じて、日々の生活にある節目や出来事、日本各地の郷土文化について思いをめぐらせていただく機会となれば幸いです。



三春人形

▷「縁起物」特集展示

郷土人形のモチーフには、さまざまなものがあります。庶民の身近にある土や紙などを主な材料に、厄除け、疫病除け、健やかな子どもの成長、商売繁盛、開運出世、五穀豊穡、家内安全など、健気に生きる人々の願いや祈りを人物や動物などの形に託したのです。中でも恵比寿・大黒や福助、達磨、招き猫、天神といった、いわゆる「縁起物」と呼ばれる人形は全国の産地で数多く作られ、広く愛好されてきました。

今回の展覧会では、第一民芸館の展示室の中央に巨大な山型の展示台を設置し、縁起物の人形を特集展示します。大きさや形、彩色の仕方、産地が異なる人形たちが一堂に集まります。同じ主題ごとの郷土人形を見比べるのも面白いかもしれません。



堤人形 福助

▷人形に多用された赤色に注目

郷土人形の彩色には赤色がよく使われています。赤色にはどんな意味がこめられているのでしょうか。古来、赤は厄を払う神聖な色で、子どもの無病息災を願うお守りの色とされてきました。江戸時代までの日本では、天然痘（ほうそう）などの疫病が人々に幾度となく襲いかかりました。日本では天然痘にかかるのは、疱瘡神に取り憑かれることによるものだと信じられてきました。天然痘にかかるると発疹が出て体が赤くなるため、疱瘡神は赤いものだと連想され、また赤い色を好むと想像されてきたのです。

江戸時代は今と違い医療が発達していなかったので人々は家に閉じこもり布団をかぶり、疫病退散に効果があると信じられていた赤い絵の具で描かれた「疱瘡絵（赤絵）」を壁などに貼って疫病除けを願うという風習がありました。また大人に比べ子どもの死亡率が高かったので、子どもの魔除けに効き目があるとされた、赤く色付けした人形は大人気だったようです。

▷三河土人形の白眉、岡本親子の作品

大浜、棚尾、旭、新川、西尾、矢作、鴨田、豊橋、国府などの産地で作られた土人形を三河系土人形と呼びます。三河の土人形は、江戸時代末期に京都伏見、名古屋の土人形に倣って作られはじめました。

三河土人形の最大の特徴は、歌舞伎や歴史の名場面から題材を取った、その躍動感あふれる造形と鮮やかで緻密な彩色です。この背景には、三河地方は江戸時代以来、村歌舞伎や村芝居が盛んな地域であったことがあります。

また、質の良い土に恵まれ、瓦の産地として知られるこの地では鬼瓦職人（鬼板師）が活躍し、歌舞伎ものを主体とした大型組物がさかんに制作されました。明治から大正にかけて黄金期を迎え、全国にも歌舞伎人形の盛況をもたらしたのです。

明治時代に旧棚尾町（現碧南市）で制作し、原型作りの名人「中十」の銘で知られる、岡本重太郎・開太郎父子。精悍で迫力のある姿態と緻密な紋様の描き込みで、数ある三河土人形のうちでも異彩を放つ岡本親子の土人形は、廃業の時期が早かったためか、現存する人形の数はきわめて少ないといわれていました。今回の展覧会ではこの幻の巨星、岡本親子の希少な作品を52点展示します。



三河土人形 光秀

▷土人形の型の展示

粘土製の人形を一般に土人形と総称しています。基本的には粘土をこね、型に入れて形を作り（型起し）、型からはずして泥漿（トロ）と呼ばれる糊で貼りあわせます。さらに陰干しした後、窯で焼き上げ、最後に彩色するという工程を経てできあがります。日本各地の土人形の中には、手捻りで成形するものもありますが、多くは型に粘土を入れて成形するもので、愛知県下の土人形もほとんどこの型起しによるものです。この型を用いることによって、同一規格の製品を大量生産することを可能にしているのです。

土人形作りに不可欠の型は、職人にとって大切な道具であることはいまでもありませんが、職人が多い所では職人相互の間で型の貸し借りが頻繁に行われていました。さらに産地間でも型は移動しており、あらかじめ型に彫られた銘が、そのまま製作者を意味するものではないことに留意する必要があります。

今回の展覧会では、豊田市民芸館が所蔵する三河土人形の雌型（凹型）の一部を第二民芸館で展示します。

（都筑正敏）



国府人形の型の展示風景

関連事業

○記念講演会「美しき郷土人形」

日時：3月11日（土） 午後2時～3時半
講師：林 直輝氏（日本人形玩具学会理事、

日本人形文化研究所所長）

会場：第3民芸館

聴講：無料（ただし会期中の観覧券の提示が必要）

定員：先着40名（当日午後1時より整理券を配布）



○土人形絵付け実演

日時：3月25日（土）、4月29日（土）

いずれも午前10時～正午、午後1時～3時

実演：禰宜田 徹氏（三河大浜土人形師）

会場：第3民芸館 *時間中の見学は自由



○土人形絵付け体験（要予約）

禰宜田徹氏による素焼きの招き猫や童子など（約15cm）の土人形にアクリル絵の具で絵付けします。

日時：第1回 3月25日（土）

第2回 4月29日（土）

いずれも①午前10時～正午 ②午後1時～3時

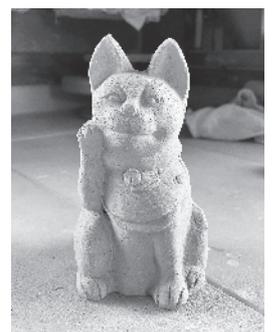
参加費：1,800円

定員：中学生以上、各回6名

会場：第3民芸館

※「土人形絵付け体験」申込みについて

往復はがき、またはホームページの講座申込みフォームで、3月7日（火）までに必着。往復はがきの場合は、往信裏面に講座名・希望日時（第2希望まで）・参加者名・住所・電話番号を記入。（1枚のはがきで2名までの申込み可）応募者多数の場合は抽選。



素焼き招き猫

特別展「藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事」を終えて

昨年12月4日に会期を終えた特別展「藍染の絞り 片野元彦・かほりの仕事」は、令和元年度に東京・日本民藝館で開催された「藍染の絞り 片野元彦の仕事」を再構成した展覧会でした。当館でこの展覧会を開催するにあたっては、元彦の絞りの道は長女・かほりの献身的な支えなくしては成り得なかったことを再確認、日本民藝館のご厚意で初出品となるかほり作品をお借りし、かほりにも焦点を当てた展覧会としました。

元彦の絞り作品は、元彦が図案を考案・下図を引き、かほりが下図に従って括りや縫いを施し、染色は元彦が手がけたものです。かほり作品においては、かほりがすべての工程を一貫して行っています。

今回元彦・かほり親子の作品を一堂に展観したことで、両者のデザインの独創性や色合いといった違いを間近に感じ取ることができました。元彦の作品は、特徴である連続模様からは緻密さが窺え、藍が主となりながらもその色合いの豊かさに魅了されました。色の効果もあり、生活に取り入れて馴染む模様となっています。かほりの作品は、その模様は独創性が高く、藍を追究した仕事です。右の写真、第2民芸館の展示風景にある、高さ約350cmの壁面いっぱいに展示された作品4点は、すべてかほりによるものです。来館された方には、かほり作品の持つ力強さを感じ取っていただけたかと思います。

名古屋市出身の元彦さんとかほりさんの作品展を地元である愛知県で開催できたことは大変意義深く、展覧会を通じて、多くの方から元彦さんとかほりさんのお話をお聞かせいただき、その人柄を知ることができました。特にかほりさんを知るお客様は多く、みなさん様に、かほりさんは謙虚で細やかな心遣いをなさる方だとお話しされ、身に着けたかほりさんの絞りを嬉しそうに見せてくださったことが印象に残っています。



第1民芸館展示風景



第2民芸館展示風景 片野かほり作品

白地寿松富貴菊桜模様紅型綸子襦袢（紅型打掛）

今回の展覧会を契機として、個人の方から片野元彦作品をご寄贈いただきました。下の写真の打掛です。写真は、展覧会への出品や講演会諸々ご協力いただいた、写真家・藤本巧氏撮影によるものですが、所持されていたのは個人の女性の方です。ご自身の結婚の際に、「どうしても片野先生の紅型で打掛を着せたい」とのお母様の強いご希望で制作してもらったそうです。

箱書には「白地寿松富貴菊桜模様紅型綸子襦袢 昭和四拾一年参月 元彦染」とあります。「綸子」は経緯糸に撚った生糸を使わない後染め用の生地で、「襦袢」は打掛のことです。昭和41年といえば、元彦が絞りの仕事に専念するようになって10年ほど経た頃ですが、元彦は絞りを始める前の約5年間型染の仕事に従事していました。作品は依頼のとおり、沖縄で開花した「紅型」という型染技法で制作されています。生地には石畳文で構成されたピンク色の松皮菱模様が配され、これを覆うように桜や紅葉、七宝、長寿の願いが込められる松や菊、富貴を意味する牡丹などが華やかに染められています。

娘の幸せを願う心が込められたこの作品、今後大切に保存・展示し活用させていただきます。（岩間千秋）



写真撮影：藤本巧氏



背中部分一部拡大



箱書

令和5年度（4月～令和6年3月）のご案内

イベント

○初夏、森の手ざわり

5月21日（日）午前10時～午後3時

今年もNPO法人民芸の森倶楽部と共働で開催します。

舞台での演奏や展示、出店などを行い、地域住民の交流や憩いの場を創出します。



○観月会

9月～10月頃 午後1時～午後6時30分（予定）

NPO法人民芸の森倶楽部と共働で開催予定です。

民芸の森に関心のある市民や、平戸橋周辺の自治区、各種団体と「月見・灯り」と「おもてなし」をテーマに活動発表・展示等を通して交流します。

○勘八峡紅葉ウォーキング

11月18日（土） 午前10時～午後1時（予定）

民芸の森を発着点として平戸橋公園の紅葉と秋の勘八峡の景色を楽しみながらウォーキングします。

○初春のお茶を一服

令和6年1月20日（土） 午前10時～午後3時（予定）

この時期にしか味わえない「花びら餅」と豊田特産のお抹茶で気軽にお楽しみいただけます。



展覧会

○森の本多コレクション展「陶磁のこま犬とその周辺」

～6月18日（日）

古陶磁器のほか、こま犬の収集・研究家でもあった本多静雄氏。豊田市民芸館で所蔵している本多氏旧蔵の陶磁のこま犬とともに関連資料を展示しています。

○森のアート展Vol.18「（仮）山田和俊寄贈作品展」

9月下旬～12月下旬（予定）

豊田市工芸協会を設立し、工芸の発展と文化振興に力を注いできた陶芸家の山田和俊氏による寄贈作品展。

森の体験

○「ガラス風鈴に和紙で絵付けをしよう」

7月15日（土）～8月13日（日） ※なくなり次第終了

透明なガラス風鈴に小原和紙の色紙を使って絵付けをします。

世界で一つだけの風鈴を作成しませんか。



○「こま犬を作って飾ろう～民芸の森の土で色付けを楽しむ～」

講座開催日：9月3日（日） 展示期間：10月21日（土）～12月3日（日）

※要申込（申込多数の場合は抽選）

こま犬を一对作陶し、民芸の森の土で色付けして焼成。焼き上がったこま犬は管理棟で展示します。

○「森の木の実でリース作り」

11月25日（土）～12月24日（日） ※なくなり次第終了

民芸の森のどんぐりや松ぼっくりなどの木の実を使用してリースを作ります。



※上記内容は、年間計画のため今後日程・内容等が変更になることがあります。詳しくは民芸の森にお問い合わせいただくか、ホームページでご確認ください。

開館40年を迎える豊田市民芸館のこれまでとこれから

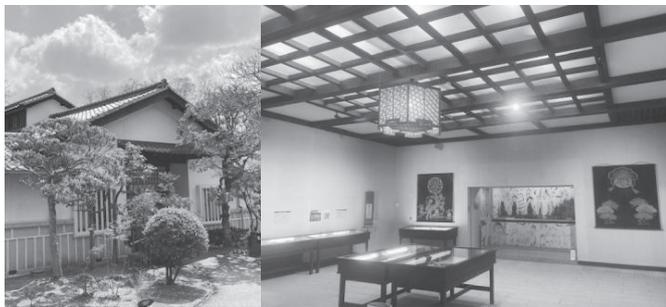
～柳宗悦の民藝、本多静雄の民芸、そして豊田の民芸を目指して～

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、人口約42万人の全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市です。豊田市がものづくりの原点である手仕事の美などを紹介する「豊田市民芸館」を設置、運営して2023年4月で40年を迎えます。これを一つの節目として、豊田市民芸館のこれまでと今後の可能性について述べます。

豊田市民芸館は1983年に日本民藝館の大広間等（現在の第1民芸館）を移築し開館しました。設計は、思想家であり、民藝運動の創始者・初代日本民藝館館長の柳宗悦氏（1889 - 1961）によるものです。

豊田市民芸館は、矢作川のほとり、水と緑豊かな平戸橋公園の中にあります。

1981年、日本民藝館が改築されることになり、当時、名古屋民藝協会会長であった本多静雄氏（1898-1999・豊田市名誉市民・古陶磁研究家・実業家）が木造の大広間と館長室を譲り受け、それを豊田市に寄贈、豊田市がさなげ古窯本多記念館（1980）の隣へ1983年4月に開館しました。開館当初は、本多氏の収集した瀬戸馬の目皿や円空仏など（後に豊田市に寄贈）を展示していました。その後、第2民芸館・茶室勸桜亭（1985）、明治期の旧井上家西洋館（1989移築）、第3民芸館（1990）を整備し現在に至ります。



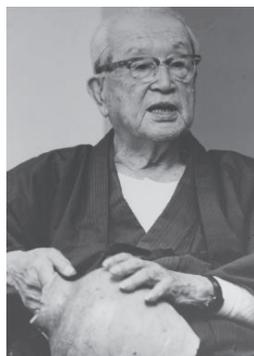
第1民芸館

なお、第1民芸館には、本多氏の意向により、円空仏25体を常設展示する鉄筋コンクリート造の建物を増築しました。第1民芸館は柳宗悦の民藝と本多静雄の民芸が合体した施設といえるでしょう。

一方、民芸館のあるエリアは、かつて観光名所として知られた平戸橋勘八峡に位置しています。本多氏はここを「民芸の溪」と名付け、日本一の民芸施設となることを願っていました。豊田市も民芸をテーマとして民芸の溪整備構想を検討した時期が1994年と2008年の2回ありましたが実現に至りませんでした。唯一、2016年には、民芸館から西へ約1 km離れた、豊田市民芸の森（旧本多静雄旧邸）を附属施設として開館しました。本多氏のコレクションや業績の紹介、講座やイベントなどを開催しています。連携しているNPO法人民芸の森倶楽部と、今後どのように共働による運営ができるか検討しているところです。

さて、民芸館では、年3回の展覧会と陶芸などのものづくり講座の2つの事業を行っています。展覧会のうち1回は、日本民藝館の展覧会を巡回展として実施しています。これは、来館者の方に民芸の逸品をご覧いただくことを目的としていますが、当館学芸員の知識や展示技術などを磨く機会ともなっています。

私が展覧会を担当した際、展示室には民芸品をより良くみせる不思議な力があり、何度も助けられました。柳宗悦氏の偉大さを改めて感じます。



本多静雄



柳宗悦

（写真提供 日本民藝館）

ものづくり講座は、実際に体験し民芸の理解を深めようと、古代の猿投窯の復元穴窯を利用する講座やガス窯陶芸、絞り染め、拳母木綿、染織、とんぼ玉の連続講座やそば猪口絵付けなどの体験講座などがあり、多くの市民が熱心に参加します。

豊田市民芸館は、2023年4月に開館40周年を迎えます。また、同じ時期に豊田市の新博物館整備（2024年開館予定）に伴い組織の再編が行われます。民芸館は、生涯活躍部文化財課から分課する博物館準備課に所属変更となります。なお生涯活躍部に美術博物室が新設され、博物館準備課と豊田市美術館（高橋節郎館含む）、文化財課が位置づけられます。民芸館は豊田市のミュージアム群の一つとして機能強化を図るとともに、今後運営方法の見直しも進めていきます。

豊田市民芸館は、次の50周年に向けて柳宗悦の民藝と本多静雄の民芸を大切にしながら、新しい豊田の民芸を目指し、宝石の原石のようにさらに発展する可能性を秘めています。今後10年で次の世代の職員たちにより、「豊田の民芸」が確立されることを期待しています。

（児玉 文彦）

特別展「全国の郷土人形展」第1・2民芸館

～5月7日(日) <観覧料 有料>

郷土人形は、江戸時代中頃より節句物、縁起物として日本各地で制作されました。庶民の間で身近な紙、木、土といった材料で作られた人形には、暮らしの中の祈りや願い、憧れが込められたのです。本展では、京都・伏見人形をはじめ、宮城・堤人形、山形・相良人形、福島・三春人形、埼玉・鴻巣人形など、素朴な美しさをたたえた全国各地の郷土人形を紹介します。

※改修工事のため5月9日(火)～6月30日(金)まで第1・第2民芸館は休館



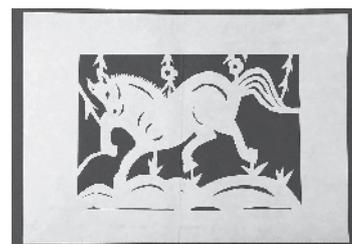
浜松張子 酒買い猫

企画展「柳宗悦と愛知の民芸」第1・2民芸館

7月1日(土)～9月24日(日) <観覧料 無料>

民藝運動の創始者・柳宗悦(1889-1961)は、その著書『手仕事の日本』(1948年発行)の中で、民藝調査を行った昭和15年頃の手仕事、愛知県では瀬戸・犬山・常滑のやきもの、扶桑の端折傘、有松・鳴海の絞り染め、知多木綿、三河木綿、足助紙、菟足神社の風車、花祭のざぜち(切り紙)について書き記しています。また、昭和31年には、名古屋市の鉦薬師にて円空仏を発見しています。

今回は柳をはじめ民藝の同人らが調査した愛知県の手仕事について、館蔵品より約200点紹介します。



東栄町花祭 ざぜち

豊田市民芸館開館40周年

特別展「沖縄の美」(日本民藝館巡回展) 第1・2民芸館

10月7日(土)～12月3日(日) <観覧料 有料>

琉球王国として独自の文化を形成してきた沖縄。その地を柳宗悦が初めて訪問したのは1938年のことでした。以来、4回にわたり工芸調査や蒐集を重ね、展覧会などを通してその魅力を紹介してきました。日本民藝館が所蔵する紅型や織物、陶器などを展覧し、あらためて沖縄が「美の宝庫」であることを紹介します。本展は2022年、沖縄が日本へ復帰して50年目の節目にあたり日本民藝館にて開催した展覧会の巡回展となります。



水色地遠山に落雁文様紅型衣裳

豊田市民芸館開館40周年

特別展「河井寛次郎(仮称)」第1・2民芸館

12月16日(土)～令和6年3月10日(日) <観覧料 有料>

当館開館40周年事業の一環として、開館50周年を迎えた京都の河井寛次郎記念館の所蔵品より、陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)の作品を紹介します。東洋陶磁の技法を駆使した初期作品、民藝運動を牽引する中での実用を意識した中期作品、独創的な造形美へと変化した後期作品を展覧、また、昭和・戦後期に作られた木彫像や木彫面、真鍮のキセル、河井の人間性・精神性を表現した書などもあわせて紹介し、河井の創作活動の全貌を振り返ります。



白地草花絵扁壺

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和5年5月21日(日)まで	……………令和4年度民芸館講座作品展
5月27日(土)～	7月30日(日) ……バーナード・リーチの訪れた窯
8月6日(日)～	8月27日(日) ……みんなの作品展
9月2日(土)～	11月26日(日) ……ちゅらさん沖縄展
12月2日(土)～令和6年2月4日(日)	……………郷土玩具展 干支と辰
2月20日(火)～	5月19日(日) ……令和5年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となることがあります。

民芸館からのお知らせ

①平戸橋桜まつり2023を開催

4月1日(土) 雨天決行 午前9時45分～午後3時

◆民芸館を含む平戸橋公園会場

野外ステージや民俗芸能祭(四郷棒の手保存会・石野町お囃子保存会)、食品販売、クラフトショップ、講座体験、こども園による絞り染めの作品展示、写生大会、スタンプラリー等

◆民芸の森会場

森の市(食品販売やクラフトショップ)、狂言舞台での合唱、オカリナ演奏等、絞り染め作品の展示、スタンプラリー等



②春の勘八峡桜ウィーク

3月18日(土)～4月2日(日)

◆茶室 勘桜亭の平日営業

(月曜日は休業、通常営業は土日祝日)

時間: 午前10時～午後4時

料金: 一服400円(菓子付)



3月18日(土)～4月9日(日)

◆3館合同スタンプラリー

〔民芸館・民芸の森・いこいの広場〕

「民芸館・民芸の森ウォーキングマップ」に3館のスタンプを押して、民芸館ポストカード、または民芸の森クリアファイルを手に入れよう!

スタンプ設置場所: 民芸館(第3民芸館)・民芸の森(田舎家)・平戸橋いこいの広場(受付)

時間: 午前9時～午後4時30分 入館無料

※4月1日(土)は桜まつり開催のため中止

③新緑ウィーク 絞り染めこいのぼりの展示と3館合同スタンプラリー

新緑ウィーク期間中【4月22日(土)～5月7日(日)】に、第3民芸館前と民芸の森で、絞り染めこいのぼりを展示します。また、この期間には3館合同スタンプラリー〔民芸館・民芸の森・いこいの広場〕も開催。平戸橋一帯の新緑と初夏のさわやかな風の中でのウォーキングをお楽しみください。

スタンプ設置場所: 民芸館(第3民芸館)・民芸の森(田舎家)・平戸橋いこいの広場(受付)

時間: 午前9時～午後4時30分 入館無料

④改修工事による第1・第2民芸館休館、茶室・勘桜亭休業のお知らせ

第1・第2民芸館

改修工事のため休館

5月9日(火)～6月30日(金)

※第3民芸館は開館

茶室・勘桜亭(一服400円・和菓子付)

営業日 土・日・祝日 午前10時～午後4時

改修工事とともなう休業 5月13日(土)～6月25日(日)

桜と紅葉の時期には平日営業あり

お問い合わせ 豊田市民芸館

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料(特別展は有料)

<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

豊田市民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

